



優しさと厳しさ

校長通信(集会だより)
堺市立美原西中学校
田中 圭一 No.60
令和元年8月26日(月)

【夏休みを終えて】

おはようございます。いよいよ新学期がはじまりました。夏休みは長かった？それとも短かった？とりわけ3年生は補充授業もあったので早く感じたことでしょう。それでも今日、このように全校で集まることで「久しぶりに仲間と会えた」と懐かしく感じている人も少なくないと思います。

さて、この夏休み中、校長先生が心配していた大きなトラブルや事故、ましてや警察からの連絡など一切ありませんでした。これはひとえにみんなが基本的な生活習慣をよく守り、部活動に励むなど、規則正しく夏休みを過ごしてくれたことに他なりません。よく頑張りましたね。

【2つの勇気】

このことに関連して、今日のお話は部活動に関するものです。この夏の厳しい暑さの中、運動部及び文化部のどのクラブも本当によく頑張ってくれました。

中でも相撲ドリームの宮野さん、出口さん、松永さん、そして陸上部の柿塚さんの近畿大会、全国大会出場は特筆すべき出来事でした。校長先生も長いこと教師をしていますが全国大会に参加できたのは初めてです。そこでみなさんに全国大会を観戦して感じたこと、感心したことをお伝えしたいと思います。

今年の全国大会は、相撲は奈良市、陸上は大阪市と比較的近くで開催されたので、たくさんの方の後輩や先生方も応援に駆けつけてくれました。

まず全国大会は会場の雰囲気が違います。何と言っても日本一を決める場所ですから大きなアリーナやスタジアムで開催され、電光掲示板に名前や学校名も掲示されます。会場の外には記念グッズの売店が立ち並びます。そして何より会場に集う選手は全員全国から選び抜かれた猛者ばかりで、みんな強そうに見えます。この雰囲気だけで一般の人間は緊張し、委縮してしまいます。そんな場所に西中の生徒が選手として戦いに臨んでいる訳で、改めてすごいことだと思いました。

そして今回の全国大会で校長先生は「2つの勇気」を感じる事ができました。

まず相撲では「チャレンジする(立ち向かう)勇気」です。

HPでも尾崎先生が紹介していましたが、とにかく集まっているメンバーがすごい！「まげ」があれば「関取」と見まがうような選手がゴロゴロいるわけです。そこに挑んだのが我がチーム西中！しかもメンバーは2年生と1年生です。

広いアリーナにたったひとつの土俵、すべての注目が集まる中、みんな真っ向から立ち向かい勝負していました。本当に勇気のいることで、この3人の姿から「チャレンジする勇気」を見せてもらいました。

(新潟から先輩の長谷川くんが応援に駆け付けてくれたのも嬉しかったです。)

もうひとつの勇気は、陸上部の柿塚さんからを見せてもらいました。それは「自分を信じる勇気です」

こちらHPでお知らせした通り「全国大会準決勝進出」と素晴らしい結果を

残してくれました。その予選のレースのことです。レースの序盤、柿塚さんはかなり遅れたように見えました。応援席の我々は「やはり全国はすごい、あのカッキーでさえ遅れてる…」と感じたのです。そんな中、後輩の池村さんが「柿塚先輩は後半勝負なんで大丈夫です」ときっぱり。そして見事彼の予想は的中、なんと柿塚さんは最後の最後にごぼう抜きで1着でゴール！本当に感動しました。

自分を信じて自分のペースを守る、なかなかできるものではありません。ましてや全国大会で周りが強者ばかりです。先行されると普通は焦って追いつこうとするものですが、柿塚さんは動じませんでした。「練習してきたことを出す」そのメンタルの強さが柿塚さんの強さでもあるのだと思います。

どんな相手でも立ち向かう「チャレンジする勇氣」、そしてどんな状況であっても「自分を信じる勇氣」をもつこと。この「2つの勇氣」を総体を前に、すべての西中生にも、もってほしいと思います。みんなの健闘をお祈りします。

最後に同じ部活動の話として、先日終了した高校野球の話にも触れておきます。特に今年は卒業生の中京学院大中京の高田さんの出場や、この春、長さんが進学した近江高校の出場など、我が西中にとっても注目の大会でした。ご存知のように、中京学院大中京が優勝候補の東海大相模を破りベスト4。さらに決勝がプロ注目の奥川投手を擁する星稜と大阪の履正社ということで大いに盛り上がりましたね。結果は履正社が見事優勝しましたが、そのことに対して星稜OBで元大リーガーの松井秀喜氏の談話が話題になっているので紹介します。

「ここで優勝できないのが、星稜。母校のそういう所も大好きです。何か新たな宿題が残った感じですね。また、新たなチャレンジをして全国制覇を狙ってほしいですね。ただ目標は全国制覇かもしれませんが、星稜高校野球部のモットーは、あくまでも、野球を通しての人間形成です。それが校訓である「社会に役立つ人間の育成」につながっていくと考えています。」

勝ち負けだけではない、スポーツをやることの意味や尊さがしっかり抑えられている素晴らしいコメントだと思います。

【生徒指導 尾崎先生より】

■『西中始業式あるある』の解消！

■夏休み期間のトラブルはなかったですか？「いじめ」「SNS」などなど

これまで西中は、『始業式あるある』に悩まされてきました。それは始業式での頭髪指導（茶髪、金髪など）です。夏休みに頭髪を茶色や金色に染めた生徒が、「別にええやろ」とそのまま登校。しかも人数は毎回10人ほど…。そんな子らを体育館ミーティングルームで先生が指導。時には言い合いに…。そんな状態のこれまでの始業式（涙）。それが『西中始業式あるある』なのです。ですが、ここ最近はそんなこともなく、落ち着いた雰囲気の中で始業式ができています。これも西中の良くなってきた一つの事例です。まだまだ課題もありますが、今後も生徒と教師、家庭と連携しながら良い学校にしていきたいと思っています。みんなで良い学校にしていこう！

